

酸化鉄造影剤を用いた造影MRI検査を受けられる患者さんへの説明書

あなたが受けられるMRI検査では、酸化鉄造影剤（薬品名 リゾビスト）の注射が行われます。この説明書をお読みにになり、ご不明な点は担当の医師、看護師に質問していただき、納得されましたら問診表に記入していただいたうえ、同意書に署名をしてください。

1. 造影検査の必要性

- * 造影剤は画像検査で診断を容易にするために使用される検査用の薬剤です。今回のMRI検査では酸化鉄造影剤という酸化鉄という物質を含む薬剤が使用されます。造影剤は血管内に注射され、肝臓内に分布します。造影剤の使用によって病気の性質や臓器の様子が鮮明に描出されるようになり、あなたの病気の状態をより正確に知ることができ、今後の治療に役立ちます。

2. 造影剤投与による偶発症（一定の頻度で起こりうる合併症）

- * 造影剤は安全な薬剤ですが、軽いものを含めて100人につき1人（1%）以下の確率で次のような偶発症が起こることがあります。
- * 注射に際して、造影剤の漏れ、末梢神経障害による痛みが起こることがあります。造影剤が血管外に漏れた場合皮膚に色素沈着が起こることがあります。
- * 軽い副作用として背部痛、腰痛、熱感、血圧上昇、悪寒、発疹がみられます。
- * 重い副作用として呼吸困難、血圧低下、ショックなどがみられます。これらの副作用には治療のため入院や手術が必要なこともあります。また後遺症が残る可能性があります。
- * 副作用はふつう注射後短時間で発現しますが、遅発性に発現する場合があります。
- * 鉄過剰症（ヘモクロマトーシスなど）のある患者さんでは症状の悪化する可能性があります。
- * 鉄剤過敏症、造影剤の副作用歴がある場合には副作用の発現の危険性が高くなります。

3. よくある質問

- なぜ造影剤を使用するのですか？
 - * 造影剤によってあなたの病気の状態をより正確に知ることができ、今後の治療に役立ちます。造影剤を使用しなくてもMRI検査は行えますが、正しい検査結果が得られない場合があります。
- 注射された造影剤はどうなるのでしょうか？
 - * 造影剤は血管内に注射されると全身の血管や臓器に分布し、肝臓などの免疫細胞に取り込まれます。注射された造影剤は24時間後ではほぼ血液中から消失します。
- 造影剤をどれくらい使うのですか？ どのように注射するのですか？
 - * 使用量は約1.5ccです。造影剤は静脈に注射します。
- 造影剤が注射中に漏れたりしないのでしょうか？
 - * 漏れることもありますが、細心の注意を払って造影剤の注射を行います。もし、血管外に造影剤が漏れた場合、漏れた部位に色素沈着が残ることがあります。
- 検査前に食事をしてもかまいませんか？
 - * 検査予定時刻の4時間前から食事をとらないでください。ただし、少量の水やお茶などの水分はとっていただいてもかまいません。ただし、牛乳、ジュースは正しい診断結果が得られなくなる可能性があるためとらないでください。
- 常用薬は飲んでもよいのでしょうか？
 - * 常用薬はふだん通り飲んでください。
- 注射を受けた後、食事や入浴などに制限はあるのでしょうか？
 - * 注射後、特に制限はありません。普段通りの生活をしていただいてもかまいません。
- 副作用はどのような場合に出やすくなるのでしょうか？
 - * ヘモクロマトーシスなどの鉄過剰症の患者さんでは症状が悪化するおそれがあります。
 - * 本剤に含有される鉄量は少なく、免疫細胞に取り込まれますので、肝硬変で減鉄療法を行っている患者さんでもあまり支障はないと考えられます。
 - * このような患者さんでは原則として酸化鉄造影剤の注射は行わないことになっていますが、臨床的に必要な場合は主治医の判断で造影剤の注射を行うことがあります。逆に、同意をされている場合であっても、検査を担当する放射線科医師の判断で造影剤を使わない場合もありますのでご了承ください。

● 副作用が出た場合の対応はどうなっていますか？

- * 万一の副作用に対して万全の体制を整えて、検査を行っています。注射中、看護師、放射線技師が常に観察しています。なにか異常がみられた場合には検査を中止し、薬剤の投与など最善の対処を行います。もしなにか異常を感じましたら、ためらわずすぐにお話ください。

● 外来の患者さんで帰宅途中、後に副作用の症状が出た場合にはどうすればいいのですか？

- * 診療時間内では 078-912-2323から各診療科に電話でお知らせ願います。
- * 夜間、休日では 078-912-2323から当直医師に電話でお知らせ願います。

